

o d a i

magazine

vol.4



■えいがのこゝろ 『her / 世界でひとつの彼女』

弱い雨の降る中、高田馬場から歩いて早稲田松竹まで。

『ロストイントランスレーション』との二本立てで観て来た。

平日の午後いちくらいで行ったのだけど、いつもこんなに混んできたかなあと思うくらい人がいた。



『her / 世界でひとつの彼女』

'13 アメリカ

監督・脚本 スパイク・ジョーンズ

普通の映画館だと次回作の予告で前情報を植え付けられてしまうけど、早稲田松竹の場合は二本立ての片方は知らないということがあるから新鮮でいい。深夜テレビをつけて映画がやってるからなんとなく見る感覚に近い。昼の映画でもいいんだけど。ただ、最近はそのういった時間に映画がやっていない気もする。

このスパイク・ジョーンズの映画は去年の作品とかなり新しいから設定されている未来も昔の映画が想像する未来とは違っていて、なんとなく現実味のある未来だった。いや、現実味はさほどないんだけど、ありそうな話というか、人はどんどん精神世界に入っていくてしまうのかもしれない。少なくとも一部の人はそうなるもおかしくなさそうだと思うた。

世の中は『笑うセー
ルスマン』の世界な
のですね。
ソフィア・コッポラ
の方は当時観たけ
ど、改めて観ると
すごく当時はあつ
た。ビル・マーレイ
はかっこいい。



■荒川喫茶警警 vol.4 ロダン

今回は、台東区の竜泉にあるロダンにやってきました。三ノ輪駅から少し南に下ったところ、樋口一葉館のそばにひっそりと存在するお店です。なお少し行くと、歓楽街吉原にたどり着いてしまう場所でもあります。

純喫茶をやつてる老夫婦というのは、独特の柔らかい空気を持つてる方が多いような気がいたします。このお店のマスターご夫婦もそういう感じで、地元の人に愛されているようです。喫茶店は必ずしも珈琲飲むためだけに行く訳ではないですからね。店内の雰囲気、人の魅力、それらが渾然一体となって好き嫌いが別れていく訳です

から……月曜日午後四時のロダンは、常連と思われるお客さんたちが多くいらつしやいました。

店内は非常に落ち着いていて品があるのでしょうか、居心地のよさについてい腰を落ち着けてしまいます。年季を感じさせるハムサンドのマスタードの効きは絶妙で脱帽モノです。気づけば2時間ほど粘つてしまい、読んでいる本もだいたいぶはかどつたのでした。

◆オーダー

ホットコーヒー350円

ハムサンド450円

◆店舗データ

「ロダン」

東京都台東区竜泉3-44-7



■おだいのわたし (3) いつか王子駅で 中村安伸

先月27日に第一回「あらくれ句会」を実施したが、どうしても集客をめぐって一喜一憂してしまふ。思つたよりも予約が集まらないだとか、来てくれると思つて期待していた人から断りの連絡が入るとか、メールに返信してくれないだとか。そういうことで落ち込んだりする事もあつたが、逆の立場で考えると、行きたくても行けないイベントがたくさんある。音楽や演劇のライブ以外にも、サブカル、文学などに関するトークショーなど、近頃は行きたいと思うイベントがずいぶん増えた感がある。

どうしても行きたい、万難を排してでもと思ひながらも断腸の思ひであきらめる悔しさ。「あらくれ句会」にご参加いただけられない方々のなかにも悔しさを噛み締めている人がいるかもしれない。そう思うと、うらむ気持ちもおこらない。いや、もともと参加されない方への怒りや恨みなどまったくありません。来てくれる方への感謝があるのみです。

さて、最近どうしても参加することができず悔しい思いをしたイベントのひとつが、12月7日に下北沢B&Bで行なわれた堀江敏幸、東直子のトークイベント「街の風景を言葉にすること」である。なぜこのイベントに心引かれたかという点、東直子さんの短歌ももちろんではあるが、何よりも堀江敏幸氏の「街の風景」を描いた文章にひきつけられていたからである。そして、この小台について堀江氏が書いた文が存在しているのである。『いつか王子駅で』という小説から引用してみたい。

「昼間のビールがきいたのか、弓を射られたわけでもないのにおぼつかない足どりで遊園地の裏手の路地を小台橋まで歩き、ヤマサの醤油や宇部セメントのタンクを見ながらいこと川風にあたって酔いを覚まし、(以下略)」

小説の主人公は家庭教師先の女子中学生とあらかわ遊園の近くで行き合い、一緒にもんじゃ焼きを食べ、そのあと一人でふらっと小台橋に来た。中学生との話題に教科書に載っている「スーホの白い馬」があがったので「弓に射られたわけでもないのに」という表現が出てくるのである。ヤマサのタンクは醤油ではなく石油であるが、作者の勘違いか意図的な混同かは不明だ。宇部セメントのタンクというがかつてあつたのだろうか？ 発表されたのが2001年ということで、すこし昔の小台である。日暮里舎人ライナーは存在しない。小説のおもな舞台は都電荒川線沿い、王子から町屋の間のことかこの電停付近の町であり、作家自身を思わせる文学の研究者である中年男が主人公である。

当初競馬雑誌に連載されていたこともあつて、著名な競走馬のエンジニアが挿入されていたり、島村利正やその師滝井耕作といった比較的マイナーな文学者の作品についての言及も多い。私が徳田秋声の『あらくれ』に関心を持ったのもこの小説内に引用され、論じられていたからである。

競馬や文学に特別関心がなく予備知識がなくても抵抗無く読めちゃうのは、文章の手触りがスムーズで上質だからなのだろう。

私はこの本を、小台に転居することを決めた頃、谷中の書店で偶然手にとり、それ以来愛読している。

■小台とはとくに関わりのない十二月の俳句

湯豆腐やいのちのはてのうすあかり

久保田万太郎は劇作家としても有名である。私は劇団新派によって上演された「大つごもり」（樋口一葉作の小説を万太郎が脚色したものを）を観た記憶がある。

万太郎は忘年句会にこの句を出し、その五ヶ月後に急逝した。

「いのちのはて」とは文字通り一生の終盤に臨んでの感懐なのだろう。「うすあかり」を人生の無常や淋しさを反映するものと解釈する向きも多い。

もちろん派手さやにぎやかさとは無縁の句境ではある。しかし、湯豆腐とのとりあわせの効果によって、うすすらとして今にも消えそうになっているものの、あたたかく滋味豊かにして肌理細やかにつやのある、そんなあかりをかき抱き慈しむような感慨のある句だと感じる。

しみじみとふりかえてみて、決して悪いことばかりではなかった、なかなか良い人生であったという満足感を、さびしさとともに噛み締めているのだと、いや、豆腐だからつると飲み込んだのだと思いたい。ちなみに万太郎は赤貝を咽喉に詰まらせてなくなったという。

※作者は久保田万太郎（1989年11月7日―1963年5月6日）

『流寓抄』以後』（1963）より。

■小台に引越してきて半年ほどになりました。俳句を作ったり読んだりしております。11月28日に第一回あらくれ句会を実施、無事世話人を勤めさせていただきました。7人の参加者のみなさま、店主の杉浦さん、大変感謝しております。

俳句は五七五ですが、その俳句のもとなったものが俳諧の連歌、いまでは連句と呼ばれている遊びです。誰かが詠んだ五七五に七七をつけ、さらに誰かが五七五をつけるというやり方で、複数の仲間（連衆と呼ぶ）でひとつの詩をつくるというものです。

先日荻窪の6次元で初心者向けの連句の会に参加してきました。俳句とはまたちがうコミュニケーションの楽しさがあるのですが、前の句を読み即興で返していくという難しさもあります。決まり事や制約も俳句よりはるかに多い。連衆をうまくガイドしつつ作品をまとめあげるリーダー役（捌きと呼ぶ）は、高松霞さんという二十代の女性で、とても説明がわかりやすく、未経験者もうまくフォローして下さるがだなど思いました。

あらくれ句会も未経験者の方が参加しやすく、楽しんでいただける雰囲気をつくっていきたいと思います。

第二回あらくれ句会は年の瀬の12月27日ということで、お忙しい方が多いとは思いますが、忙中閑ありと申します。エアポケットのように予定が空いてしまったというようなことがあります。ぜひお運びください。俳句を五句ご用意くださいね。お問い合わせ、参加のお申込みは yasnakam@gmail.com まで、どうぞ夜露しくおねがいいたします。

（中村安伸）

NIGHTMARE PICTURES



ピーター・ブリューゲル (父) "Big Fish Eat Little Fish"
(原題 :GRANDIBVS EXIGVI SVNT PISCES PISCIBVS ESCA)

前回紹介したデューラーの画から 30 年ほどのちに描かれたこの作品は、ブリューゲルの原作をピーター・ヘイデンという画家が版画に仕立て直したものとされています。大きな魚が中くらいの魚を食べ、中くらいの魚はさらに小さな魚を食べているという、自然界のグロテスクな無限連続。それを大漁の恵みとして歓喜のうちに受け取る人間たちの生活のなまなましさを、この絵は正面から見つめています。

■おしえて！ おだいじん

こんにちは。またまたやってきましたぞ。

みんなが普段思ってる疑問などにわしが適当に教えるというコーナーじゃ。

さあて、今回は誰がどんな疑問を送ってくれたじゃろか。

むむ、、これは、、、

なんと、誰からも来てないではないか！やれやれ、これでは仕事にならん。

しかし何も教えないというのもおだいじんの名が廢るからの、教えよう。



Père Noël という言葉はわかるかのお。Père はパパで、Noël はクリスマスじゃ。

発音はわしには日本語で書き表せない故、Forvo で調べてくれ。

もうお分かりかのお。そう、サンタクロースをフランス語で言うところなるんじゃ。

季節感があると思ったじゃろう。季節感がある方が入りやすいと思つての。

クリスマスのパパ = サンタ というのは少しシニカルに見えて面白いのお。

今回はここまで、次回は応募があることを祈っておるぞ。

↓<おだいじんへの疑問、質問はこちら>

hello@cafebrucke.org

店主の手記

手記と言ってもとりわけ書きたいこととか、書きたいことは大概書けなかったりするのでこのコーナーも自分で作っておきながら困っておりますが、続けて行きたいと思つています。

さて、最近はだんだん寒くなってきました。みなさん風邪などひかぬよう体調管理にはお気をつけ下さい。私の回りではマスクをしたり、ゴホゴホしている人がたまにいます。幸い私は先月、猛烈に体調を崩して以来それなりに健康に過ごせています。寝坊ばかりで全然出られなかった早朝ランに先日久しぶりに参加したら結構足がだるいですが、元気です。

体というのは不思議なもので、季節によって機能が少し違います。私の場合、冬になりたてというのは寒い寒い言ってしまうのですが、だんだんと慣れて、と言うよりは体が冬型になると言った方がしっくりくる感じなのですが、おなかが空いてその分食べて、その分燃焼されるので、比較的薄着で冬を過ごせます。ただ、季節感がなくなってしまうので、たまに無理な厚着とか、やっぱり重ね着をしたくなってしまうものでアツいのを我慢して冬の恰好をすることがあります。

そういえば、みかんがおいしいですね。今年も沢山みかんを食べたいと思つています。

店での出来事

キネマトブリュッケ

11/16にはキノ・イグルーさんを招いての短編映画上映会がありました。ショートフィルム、CM、MVなど全部で16編を流していただきました。中でも個人的には Gonzales vs Zygel の Piano Battle がとても面白かったので、気になる方は youtube で検索してみてください。あと、Lunch Date もいいです。

カレーを食べるキノ・イグルーのお二人



橋と音楽 vol.6

若槻素直さんと星山可織さんにご出演頂きました。お二人とも曲ももちろんよかったのですが、MCが長めで面白い方たちでした。写真は月と星が出会った瞬間です。

第一回 あらくれ句会

俳人の方々が集まったの句会がありました。一般の方が残念ながら来られなかったので素人としては私だけがどきどきしながら参加させて頂きました。

定例化する予定です。会費はありませんので、ご興味ある方はお気軽に是非ご参加ください。

俳句入門者向けのワークショップも今後あるかもしれませんので要チェックです。



■店の予定

- 12/14 (日) 橋と音楽 vol.7
- 12/20 (土) 第五回 おだい寄席
- 12/21 (日) チャーシューの日
- 12/27 (土) 第二回 あらくれ句会
- 12/28 (日) Au revoir みなさん
- 1/9 (金) シリーズ貝塚 東京

詳細はHPでご確認ください。

<http://cafebrucke.org/event>

odai magazine vol.4
2014年12月14日発行

編集・印刷

BRÜCKE